京都府医療審議会第２回計画部会の主なご意見

小児科における若手医師減少への対応について

○京都府全体では医師数は多いものの、小児科では専攻医シーリングの影響等により若手医師の減少が見込まれる。今後、夜間・救急医療体制や医師少数区域への医師派遣機能の低下が懸念されることから、若手医師の確保・育成に向けた取組を計画に盛り込むべきである。

重点医師偏在対策支援区域の設定について

○重点医師偏在対策支援区域の設定について、二次医療圏単位とすると範囲が広すぎて、地域ごとの実情が十分に反映されないのではないか。また、医師少数スポットとの整合性について、どのように考えているか。

地域歯科医療支援センター（仮称）の設置について

○厚生労働省が構想する「地域歯科医療支援センター（仮称)」について、京都府でも同様の支援センターを設置する予定があるか。

患者アクセスについて

○府北部や山城南地域における交通手段不足等を踏まえ、在宅歯科医療を含む患者アクセス確保に関する京都府の考え方はどうか。

看護師をはじめとする多職種の確保について

○今回の中間見直しが医師確保を中心とした内容となっているが、その他の職種、例えば在宅医療を支える訪問看護など看護職の役割も重要である。今後の在宅医療推進に向けて、多職種の確保についても計画に反映すべきではないか。

病院薬剤師の確保について

○薬剤師、特に病院薬剤師については地域偏在が見られ、丹後、南丹、山城南地域において不足している状況にある。また、京都・乙訓地域についても、偏在指標上は充足しているように見えるものの、中小病院では病院薬剤師の確保が困難な状況が続いている。こうした実情について、計画に反映していただきたい。